

**2025年3月期 第1四半期**



アリアケジャパン株式会社

**決算説明会資料**

2024年8月9日

アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

# 目 次

02-04	第1四半期 決算のポイント	20	設備投資の推移（連結・単体）
05-06	グループ別売上高（対前年実績比較）	21	減価償却費の推移（連結・単体）
07-08	グループ別営業利益（対前年実績比較）	22	当期計画
09-10	海外グループ会社状況	23-26	中期3年事業計画
11-13	アリアケジャパン単体状況	27-28	アリアケジャパン成長のビジョン
14	中国市場の成長戦略	29	設備投資予定
15	米国市場への再進出	30-31	資本コストや株価を意識した経営
16	売上高推移（単体・連結）	32-34	サステナビリティへの取組
17	営業利益推移（単体・連結）	35	アリアケグループ「世界7極体制」
18	経常利益推移（単体・連結）		
19	親会社に帰属する当期純利益推移 （単体・連結）		
			〔補足資料〕 決算のポイント

## 第1四半期（4月－6月） 決算ポイント（要約）

項目	実績	前年	前年増減	前年比
連結売上	152.9	135.0	+17.9	+13.2%
連結営業利益	22.2	19.6	+2.6	+13.3%
連結経常利益	29.1	28.4	+0.7	+2.4%
連結純利益	18.2	18.7	-0.5	-3.0%
単体売上	108.3	101.0	+7.3	+7.2%
単体営業利益	15.1	12.0	+3.1	+26.0%
単体経常利益	24.8	23.8	+1.0	+4.1%
単体純利益	17.4	16.6	+0.7	+4.3%

※単位は億円 四捨五入して記載 前年比は、%表記

## [連結] 第1四半期 決算のポイント

### □ 売上・営業利益

増収、増益

売上高152.9億円（対前年+17.9億円+13.2%）

海外子会社44.6億円（対前年+10.6億円+31.0%） 全子会社とも順調に伸長。

営業利益22.2億円（対前年+2.6億円+13.3%） 営業利益率14.5%（前年同）

海外子会社は、アジア及びオランダは堅調に増、営業利益率も20%超

フランスは、日本向け輸出調整により減益、ベルギーが減価償却増により営業赤字

海外子会社営業利益7.1億円（対前年-0.5億円-6.8%） 営業利益率15.8%

### □ 経常利益・純利益

為替差益・デリバティブ評価益減により、経常利益は+2.4%、純利益は微減

### □ 2025年3月期 業績予想

売上628億円（+4.7%） 営業利益99億円（+14%） 営業利益率15.8%

## [アリアケジャパン単体] 第1四半期 決算のポイント

### □ 売上・営業利益

増収、増益

売上高108.3億円（対前年+7.3億円+7.2%） 外食好調で売上牽引

営業利益15.1億円（対前年+3.1億円+26.0%）

営業利益率 13.9%（対前年2.0ポイント改善）

価格改訂、コストダウン効果により営業利益率が改善

### □ 経常利益・純利益

経常利益は24.8億円（対前年+1.0億円+4.1%）

純利益は17.4億円（対前年+0.7億円+4.3%） 為替差益・デリバティブ評価益減

### □ 2025年3月期 業績予想

売上460億円（+2.9%） 営業利益69億円（+17%） 営業利益率15.0%

## [グループ別] 売上高（対前年実績）

※子会社は連結調整後

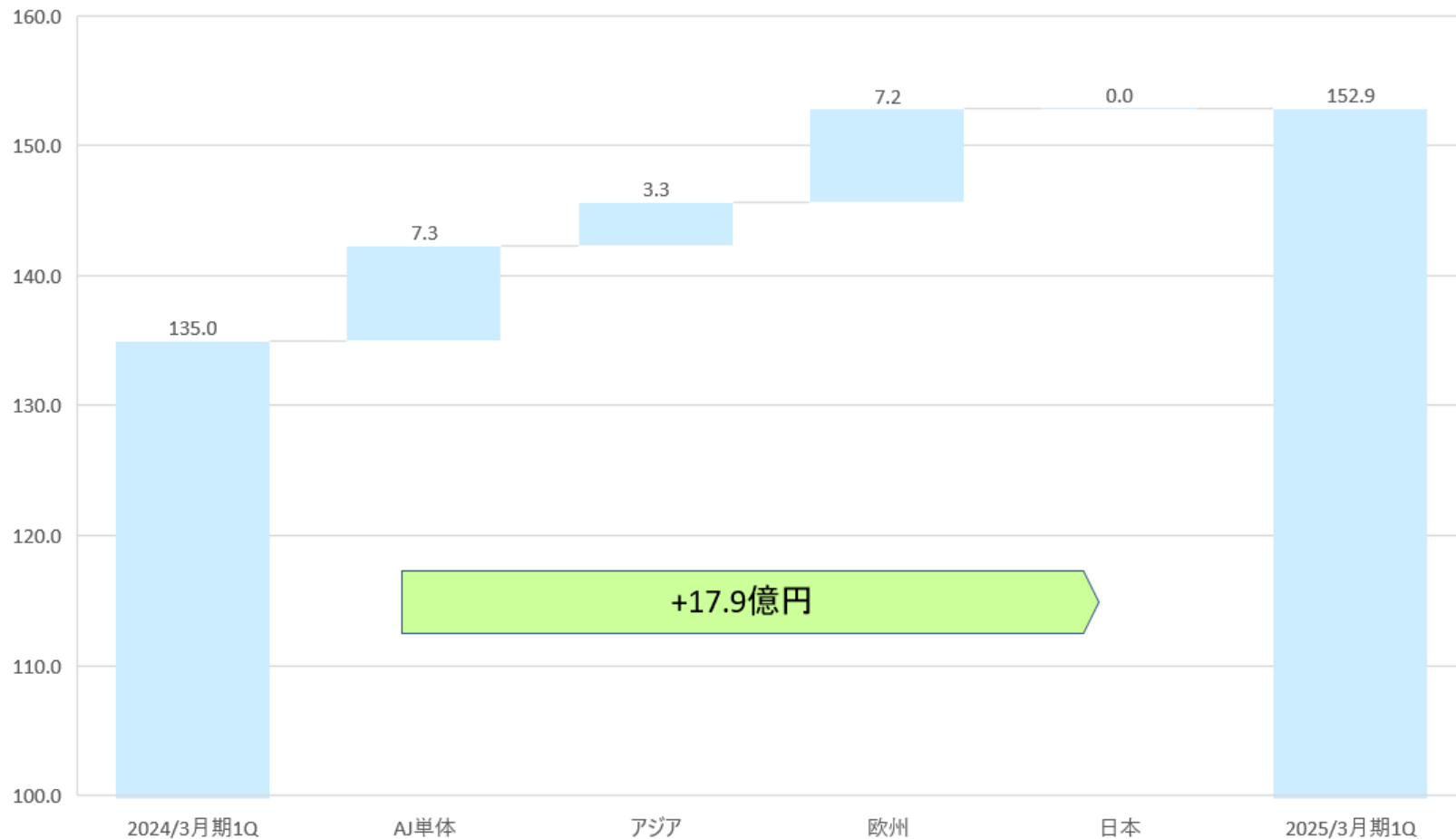
（単位：億円）

	2025/3期 1Q (A)	2024/3期 1Q (B)	増 減 (A-B)	%	
				%	為替中立
アリアケジャパン	108.3	101.0	7.3	7.2%	-
子会社 計 ※	44.6	34.1	10.6	31.0%	19.8%
アジア	24.2	20.9	3.3	16.0%	7.8%
欧州	19.6	12.4	7.2	58.0%	41.0%
日本	0.8	0.8	0.0	2.1%	-
連結	152.9	135.0	17.9	13.2%	10.4%

EUR	163.24	145.72	17.52
人民元	20.83	19.42	1.41
台湾ドル	4.74	4.38	0.36
ルピア	0.0096	0.0089	0.0007

# [グループ別] 売上高 (対前年実績)

(単位：億円)



## [グループ別] 営業利益（対前年実績）

※子会社は連結調整後

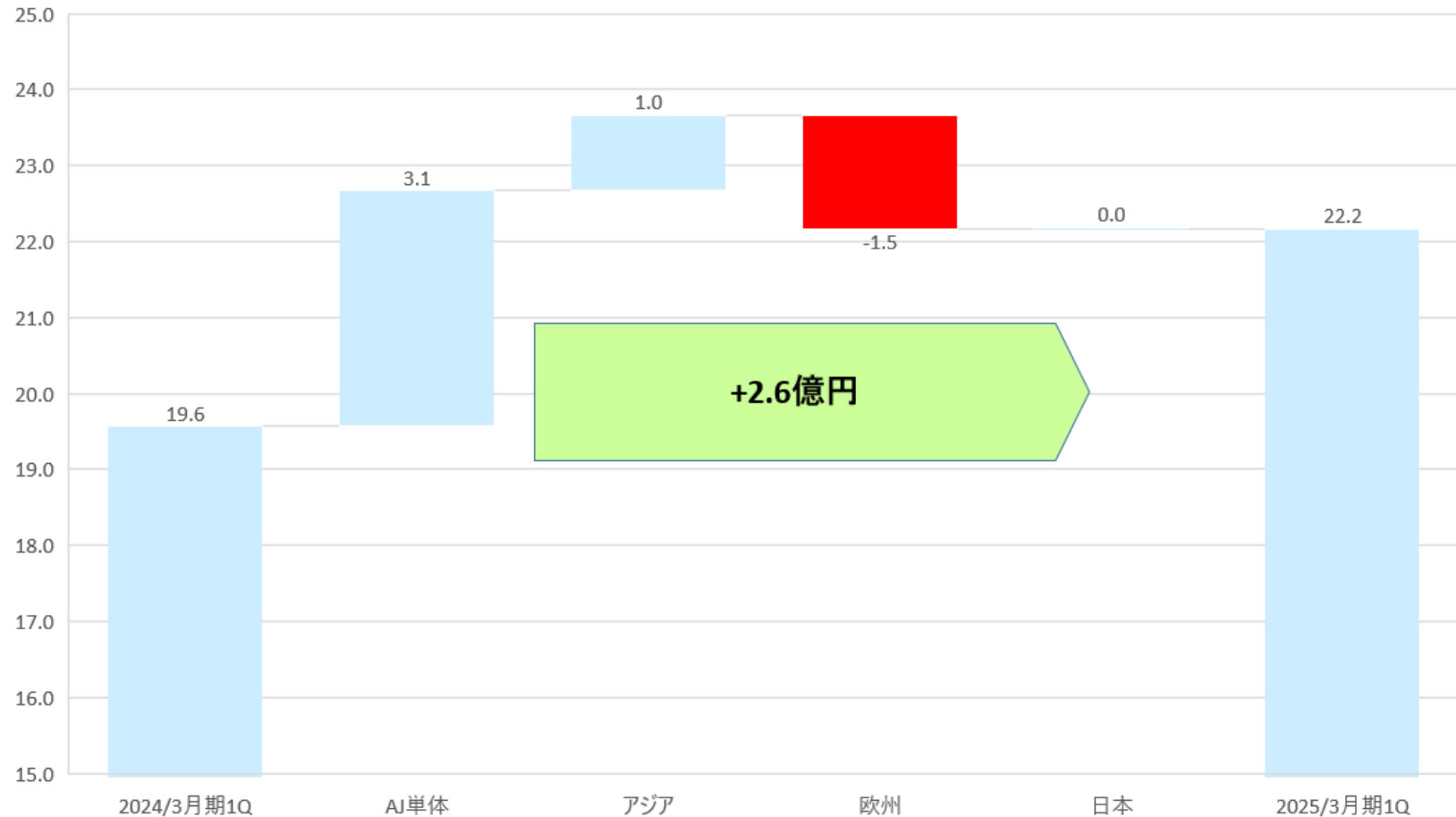
（単位：億円）

	2025/3期 1Q (A)	2024/3期 1Q (B)	増 減 (A-B)	%	
				%	為替中立
アリアケジャパン	15.1	12.0	3.1	26.0%	-
子会社 計 ※	7.1	7.6	△ 0.5	-6.8%	-13.9%
アジア	5.9	4.9	1.0	19.6%	11.1%
欧州	1.2	2.6	△ 1.5	-56.3%	-60.9%
日本	0.0	0.0	0.0	4.3%	-
連結	22.2	19.6	2.6	13.3%	10.6%



# [グループ別] 営業利益（対前年実績）

(単位：億円)



## [アジア] 海外グループ会社の状況

### □中国

- 前年のコロナ禍による大幅減から回復し、売上は対前年16.5%増（為替中立8.7%増）、営業利益は同じく26.8%増（同18.3%増）となりました。1Q後半、2Qにかけて消費控えによる全般的な売上減の傾向があり今後の懸念材料です。
- 新規顧客、新規案件の開拓に取り組みます。特に、最終B2C製品の販売に注力すべく流通向け調理製品（予製菜）を開発中です。

### □台湾

- 売上は対前年9.4%増（為替中立1.1%増）、営業利益は同じく8.1%増（同0%）となりました。輸入食品安全問題（唐辛子）で火鍋店、小規模店の売上が一時期低迷、ラーメン市場内でのシェア争奪戦などにより、計画を下回る伸びとなりました。
- 2Qにかけては、外食企業の中での勝ち組の伸長、外食企業が手掛けるB2C用製品の伸長により順調な売上増となっております。

### □インドネシア

- 売上は対前年83.4%増（為替中立70%増）、営業利益は同46%増（同35.3%）となりました。
- アリアケジャパン向け輸出を調整した一方、インドネシア国内、ASEANへの輸出に注力しました。グループ外売上比率は、前年1Qの26%から47%へ大幅に伸長致しました。

## [欧州] 海外グループ会社の状況

### □ベルギー

- 既存製品のEU圏内での販売増により売上は対前年220.3%増（為替中立185.9%増）、一方で営業利益はUHT設備の減価償却増により、1.84億円の営業赤字（対前年－1.82億円 為替中立－1.62億円）となりました。
- 2023年末から、UHT製品の販売を開始致しましたが、まだ認知が不足しており、販売・管理体制の強化と製品の追加などを行います。

### □フランス

- EU圏内での販売促進により、売上は対前年60.4%増（為替中立43.1%増）、営業利益は同じく36.9%（同－43.7%）のマイナスとなりました。
- ユーティリティコスト増は緩和されましたが、日本向け輸出量の調整により、固定費率が上昇し利益減要因となっております。期の後半は増産予定ですので、徐々に解消されます。
- スプレー粉末製品の販売は、販売ルートを有するオランダ（ヘニングセン）との販売提携を行い、グループシナジー効果を期待しています。

### □オランダ（ヘニングセン）

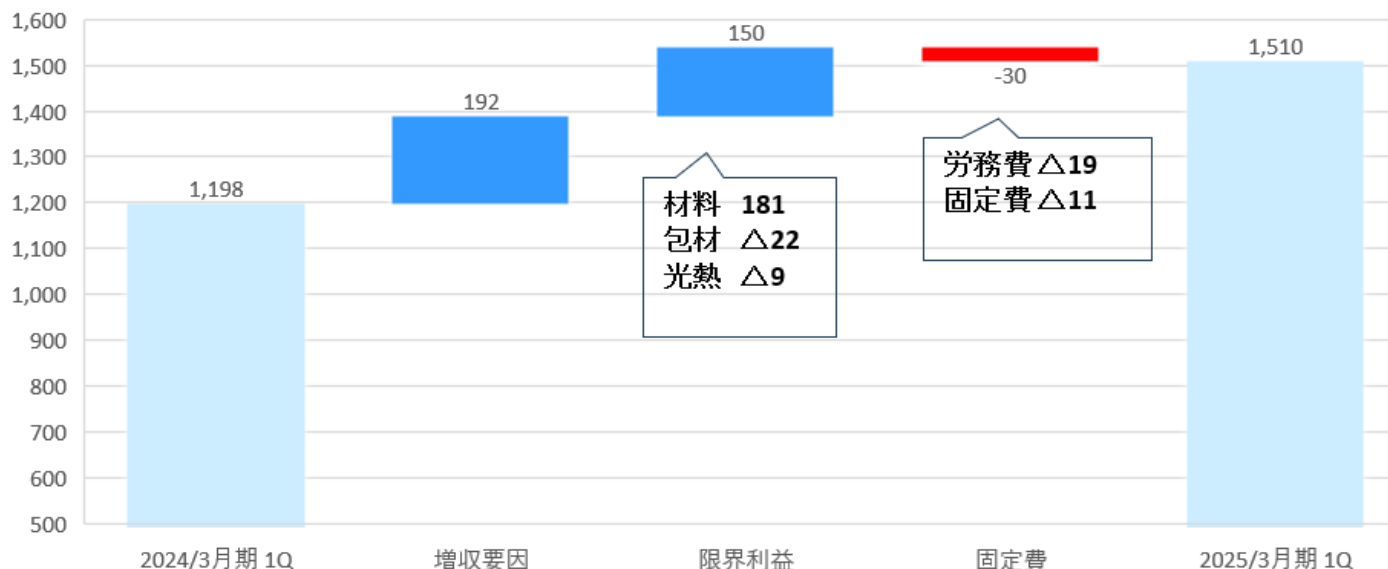
- 長年の実績をベースに堅調な売上と営業利益です。売上は対前年17.5%増（為替中立4.9%増）、営業利益は対前年36.2%増（同21.6%増）となりました。

## [アリアケジャパン単体] カテゴリー別売上比率及び増減

カテゴリー	売上比率	前年比増減
食品メーカー	20%	+7%
外食	48%	+14%
CVS	31%	-3%
輸出	1%	0%
合計	100%	+7.2%

## [アリアケジャパン単体] 利益変動要因 (対前年比較)

■ **営業利益 1,510百万円** 前年比312百万円 (+26.0%) (単位：百万円)



■ **経常利益 2,479百万円** 前年比 +97百万円 (+4.1%)

(単位：百万円)

増加要因	営業利益増加	312
	受取配当金他	88
減少要因	為替差益	$\Delta 108$
	デリバティブ評価益	$\Delta 195$
	合計	97

## [アリアケジャパン単体] 売上・利益の状況

### □売上

- 人流回復、インバウンド効果、人手不足需要などにより、外食需要は活発で14%伸長。
- 加工食品メーカー向けは堅調な需要と値上げ効果もあり7%の伸びとなりました。
- CVS向けは、CVS自体の売上停滞もあり、対前年3%のマイナスとなりました。
- 引き続き、提案営業を継続し、売上拡大を図ります。外食企業の海外進出に対するフォロー、スーパー業態への拡販など行います。

### □利益改善

- 原料、包材、運賃値上がり、円安の進行など利益悪化要因が引き続きありますが、今期計画営業利益率15%の達成に向けて、工場におけるVA、工程改善によるコストダウン、営業における利益改善（価格改訂、リニューアル）を推進中です。
- 営業の利益改善計画約22億円（年度内効果額）に対し達成見込額17億円（76%）です。  
1Q売上増に占める価格改訂の効果（対前年単価UP額）は約40%でした。
- 工場のコストダウン計画約26億円に対し、6月までの達成額は8億円（31%）です。
- 1Q（4月～6月）の単月の営業利益率は、すべての月で対前年を上回っております。

## [中国] 中国市場の成長戦略

### □新工場の建設

- 青島政府の方針転換により、青島有明の立ち退き要請の撤回と既存工場周辺土地の提供が示されたため、約24000㎡の土地を購入予定です。それに伴い2000万\$の増資を行います。
- 既存第二工場に隣接する形で新工場の建設するよう設計中です。2026年度後半稼働を見込んでおります。投資額は約50億円を予定しております。
- 新工場は中国における労務費の上昇と少子化を念頭に、これまで蓄積した経験と最新技術を基にさらに先進的な自動化工場とし、生産性を飛躍的に向上させます。

### □販売戦略

- 現在の主要顧客である外食、食品メーカー、CVSを中心にB2B製品を主体に売上増を図ります。
- 新工場では、消費者向け最終製品の製造が可能なラインを設置し、天然調味料をベースにした調理加工品（日式・中式予製菜）を製造・販売致します。販売先は、日系大手流通、現地EC企業、外食顧客などを予定しております。
- 日本との人口比から、今後も中国市場の拡大は期待でき、2026年度には100億円、2030年には200億円の売上を目指しております。

## [米国] 米国市場への再進出

### □米国市場への再進出

- 東海岸バージニア州チェサピークに53000m<sup>2</sup>の候補地を選定致しました。1期工事として、8000m<sup>2</sup>程度のR&D 含む工場の建設を計画中です。
- 2024年7月1日Ariake U.S.A.,Inc.を設立致しました。資本金は1000万 \$ です。2025年度土地購入・設計～着工、2027年度稼働開始を予定します。
- 2027年度から販売を開始し、2030年度には40億円の売上を見込んでおります。

### □製造・販売予定製品

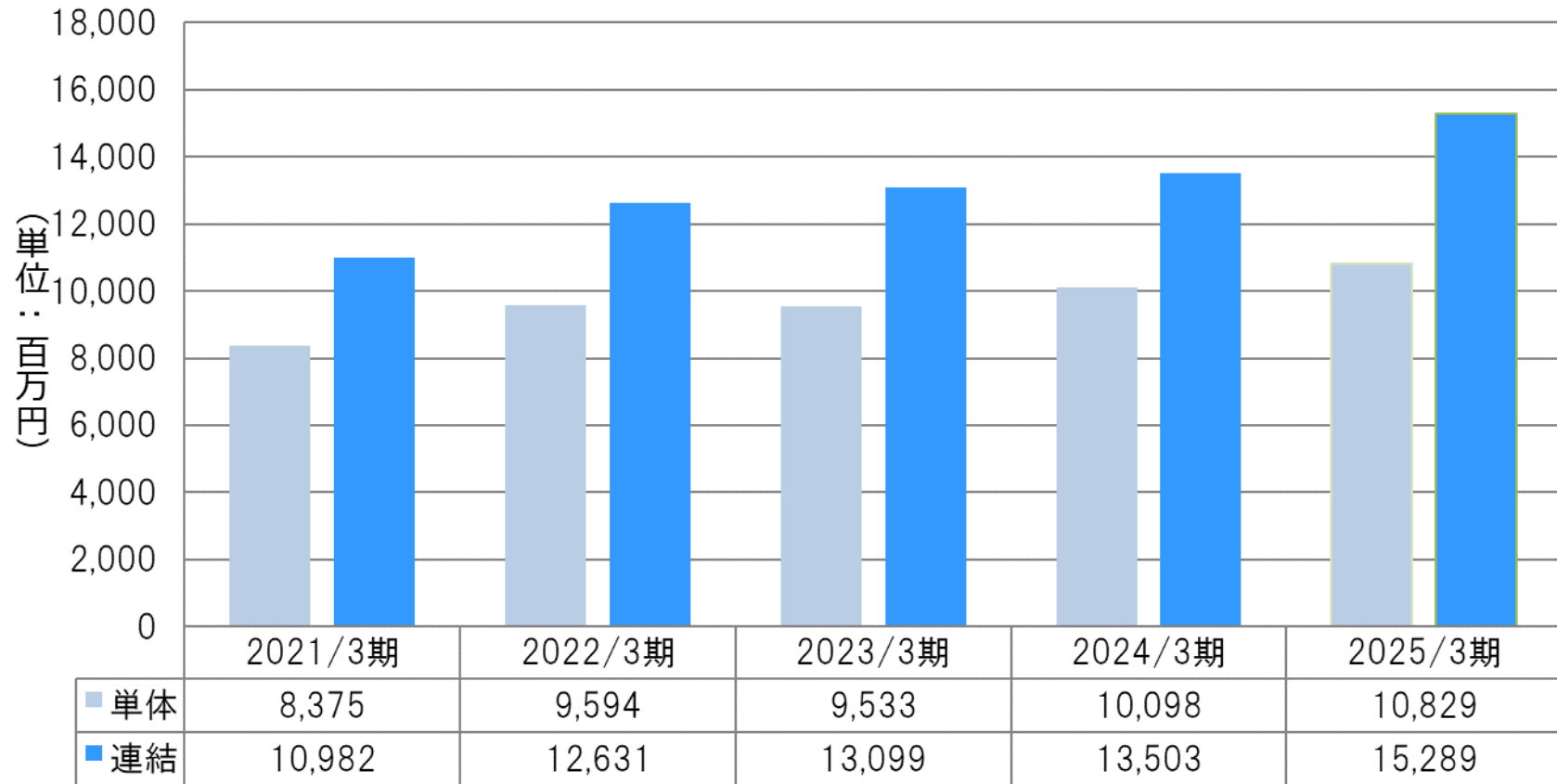
- プラントベースの新規開発製品群
- 既存技術を活用したレトルト製品、ラーメンスープ

### □販売先

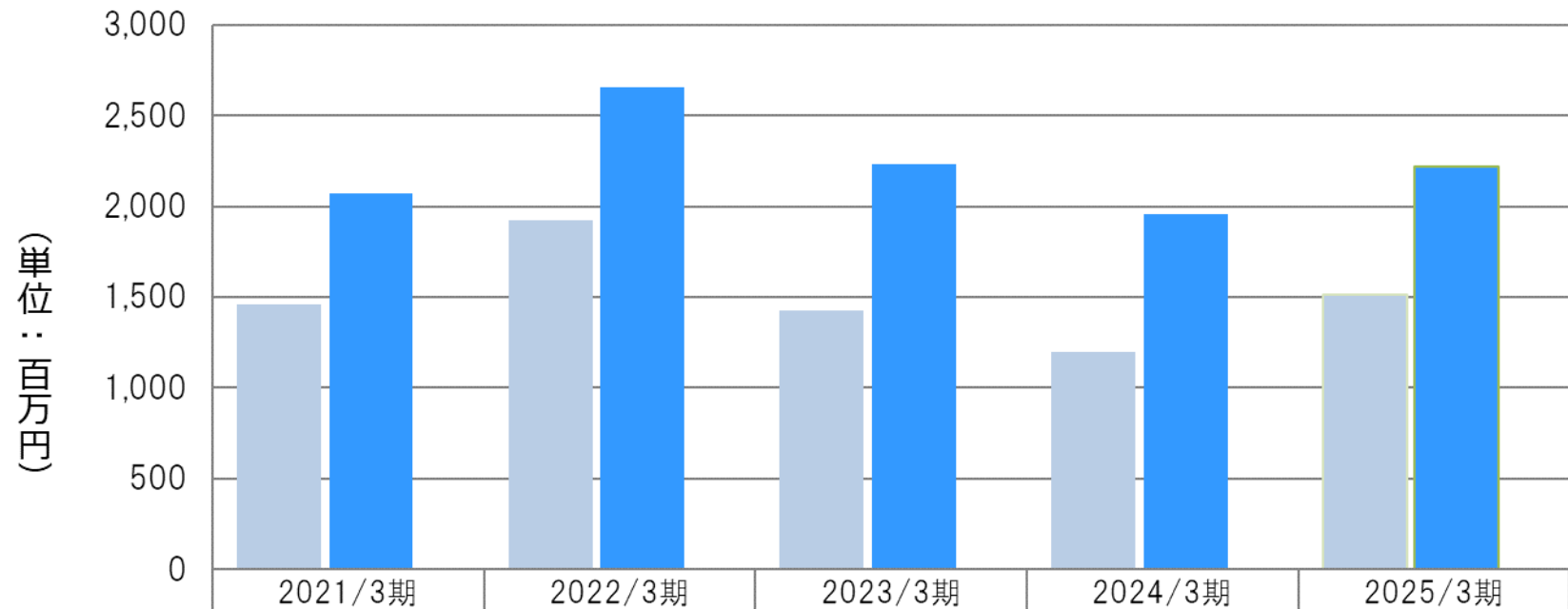
- B2C スーパーマーケット、CVS
- B2B フードサービス、CVSベンダー、食品メーカー



## 第1四半期 売上高の推移（単体・連結）

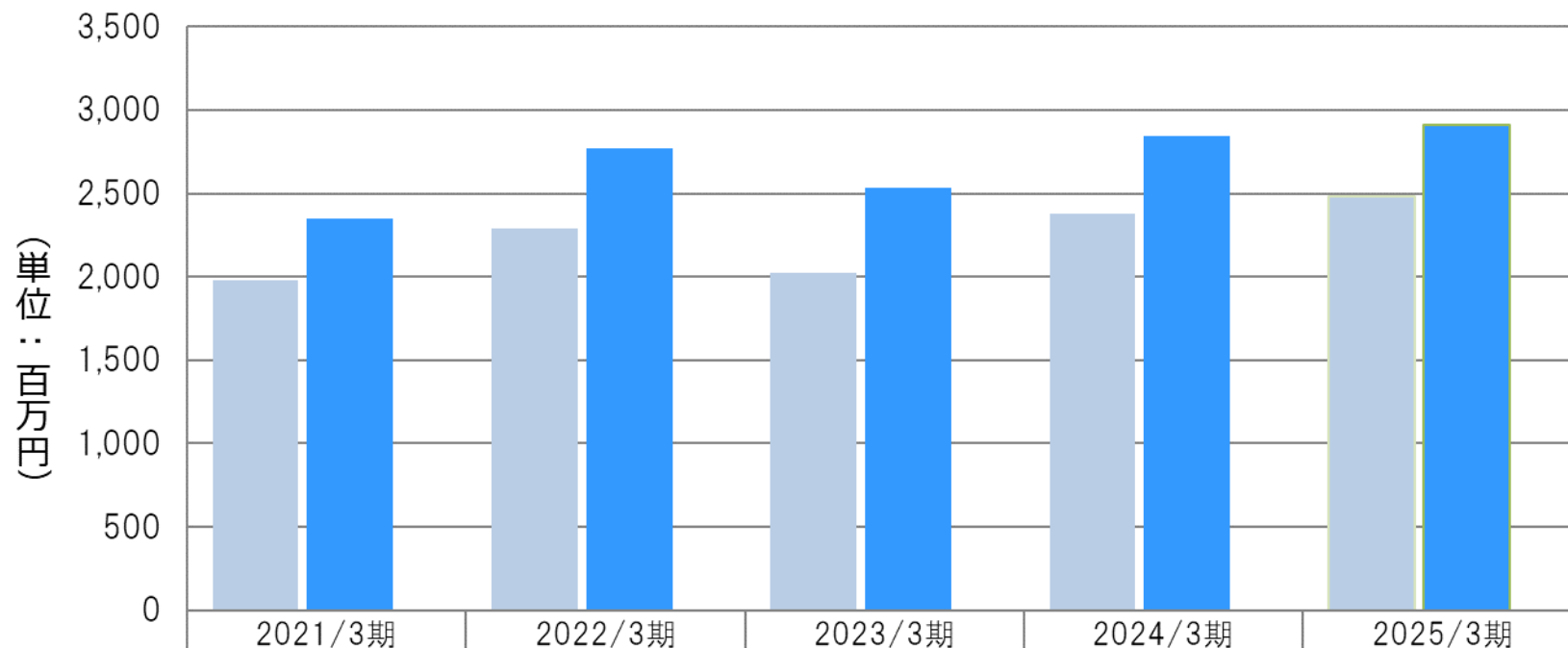


## 第1四半期 営業利益の推移（単体・連結）



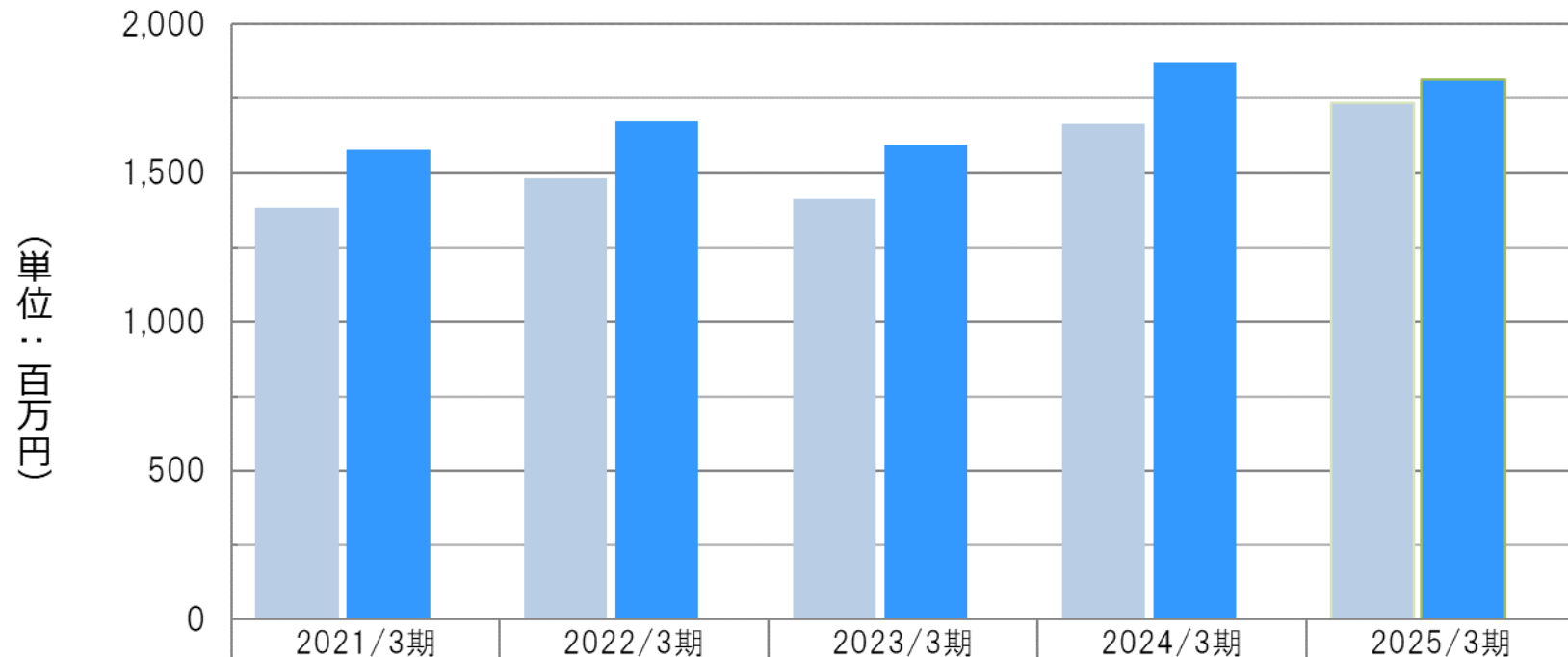
■ 単体	1,463	1,921	1,426	1,198	1,510
営業利益率	17.5%	20.0%	15.0%	11.9%	13.9%
■ 連結	2,070	2,652	2,230	1,957	2,217
営業利益率	18.9%	21.0%	17.0%	14.5%	14.5%

## 第1四半期 経常利益の推移（単体・連結）



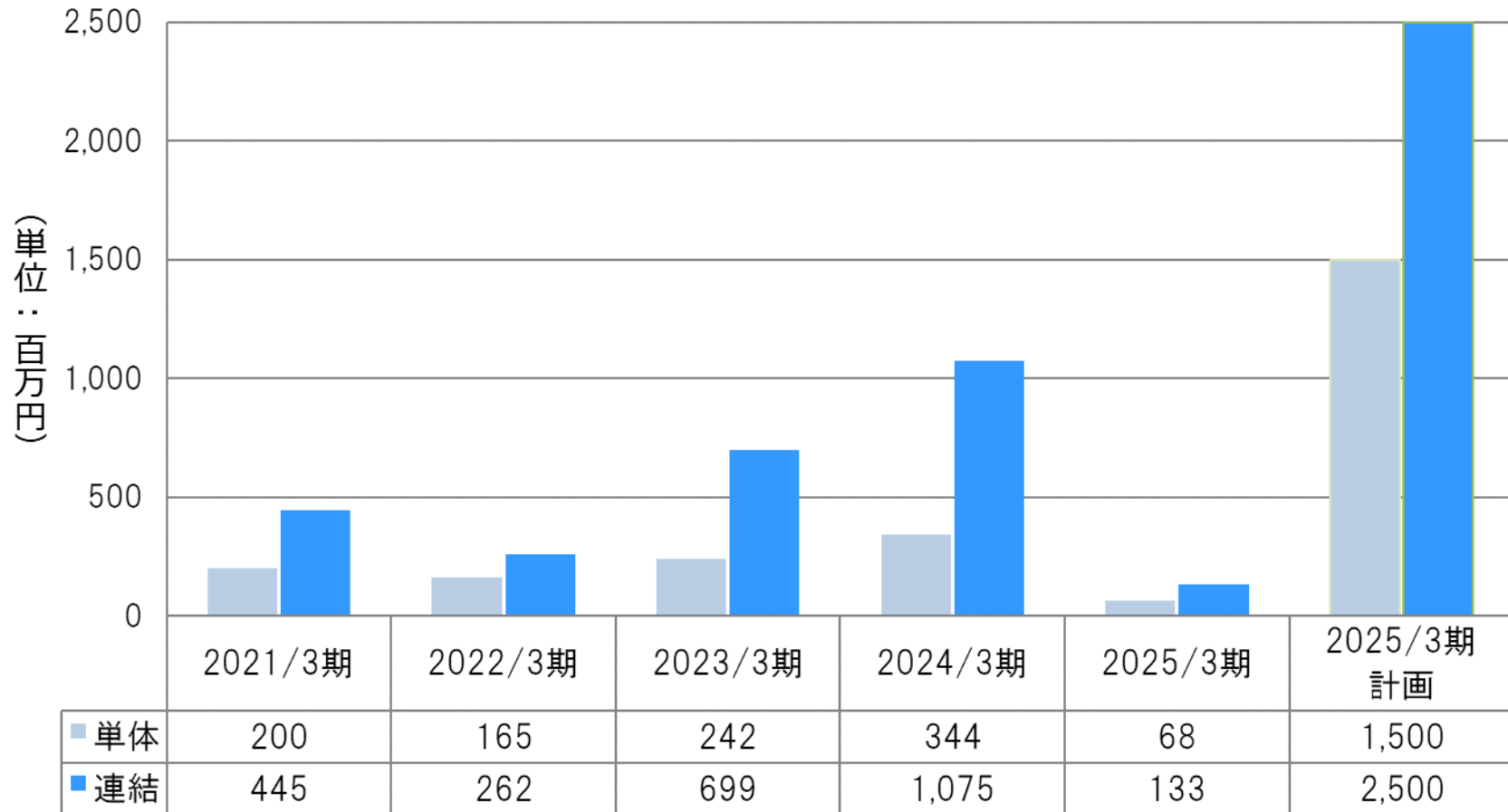
	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
■ 単体	1,980	2,287	2,026	2,381	2,479
経常利益率	23.6%	23.8%	21.3%	23.6%	22.9%
■ 連結	2,347	2,768	2,530	2,844	2,912
経常利益率	21.4%	21.9%	19.3%	21.1%	19.0%

## 第1四半期 親会社株主に帰属する 当期純利益の推移（単体・連結）

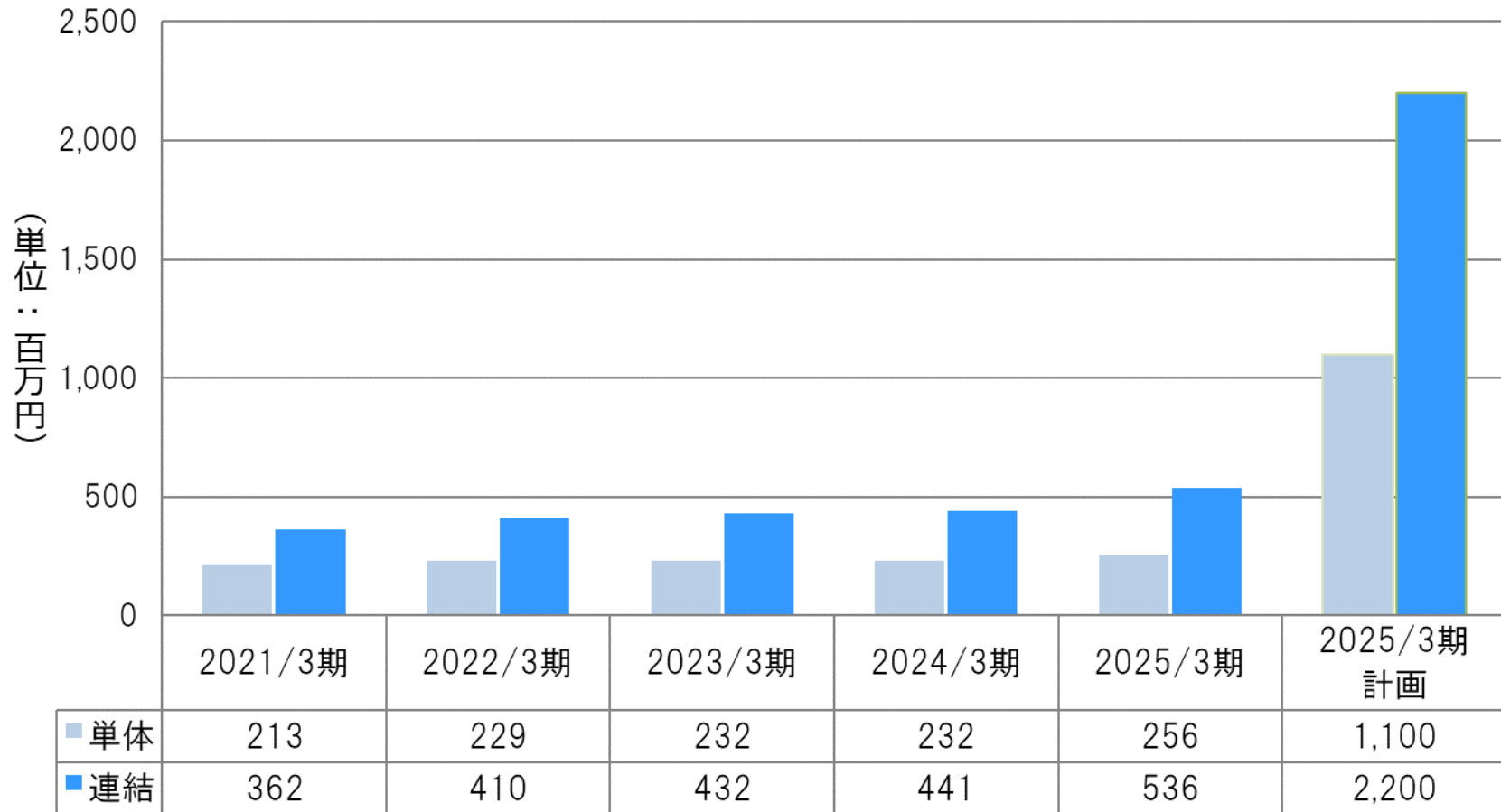


■ 単体	1,383	1,480	1,411	1,663	1,735
当期純利益率	16.5%	15.4%	14.8%	16.5%	16.0%
■ 連結	1,577	1,671	1,595	1,870	1,815
当期純利益率	14.4%	13.2%	12.2%	13.9%	11.9%

## 第1四半期 設備投資の推移（連結・単体）



## 第1四半期 減価償却費の推移（連結・単体）



## 当期計画（地域別）

※子会社は連結調整後

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2025/3期 計画 (A)	2024/3期 実績 (B)	増減 A-B	2025/3期 計画 (A)	2024/3期 実績 (B)	増減 A-B
アリアケジャパン	460	447	13	69	59	10
子会社 計 ※	168	147	22	30	27	3
アジア	109	95	13	26	23	3
欧州	57	54	2	4	4	△ 1
日本	3	3	△ 0	0	0	△ 0
連結	628	600	28	99	87	12

EUR	157.12	157.12	0.00
人民元	19.93	19.93	0.00
台湾ドル	4.62	4.62	0.00
ルピア	0.009	0.009	0.000

## 中期3年事業計画

### □ 連結

3年後の2026年度（2027年3月期）の連結売上高は705億円（海外売上高比率32%）、営業利益率19%を目指します。従来のB2B事業に加え、中国、ベルギーを主体に消費者向けのB2C製品の販売を強化し、売上増を図ります。

2026年度の営業利益率は19.5%を計画しております。

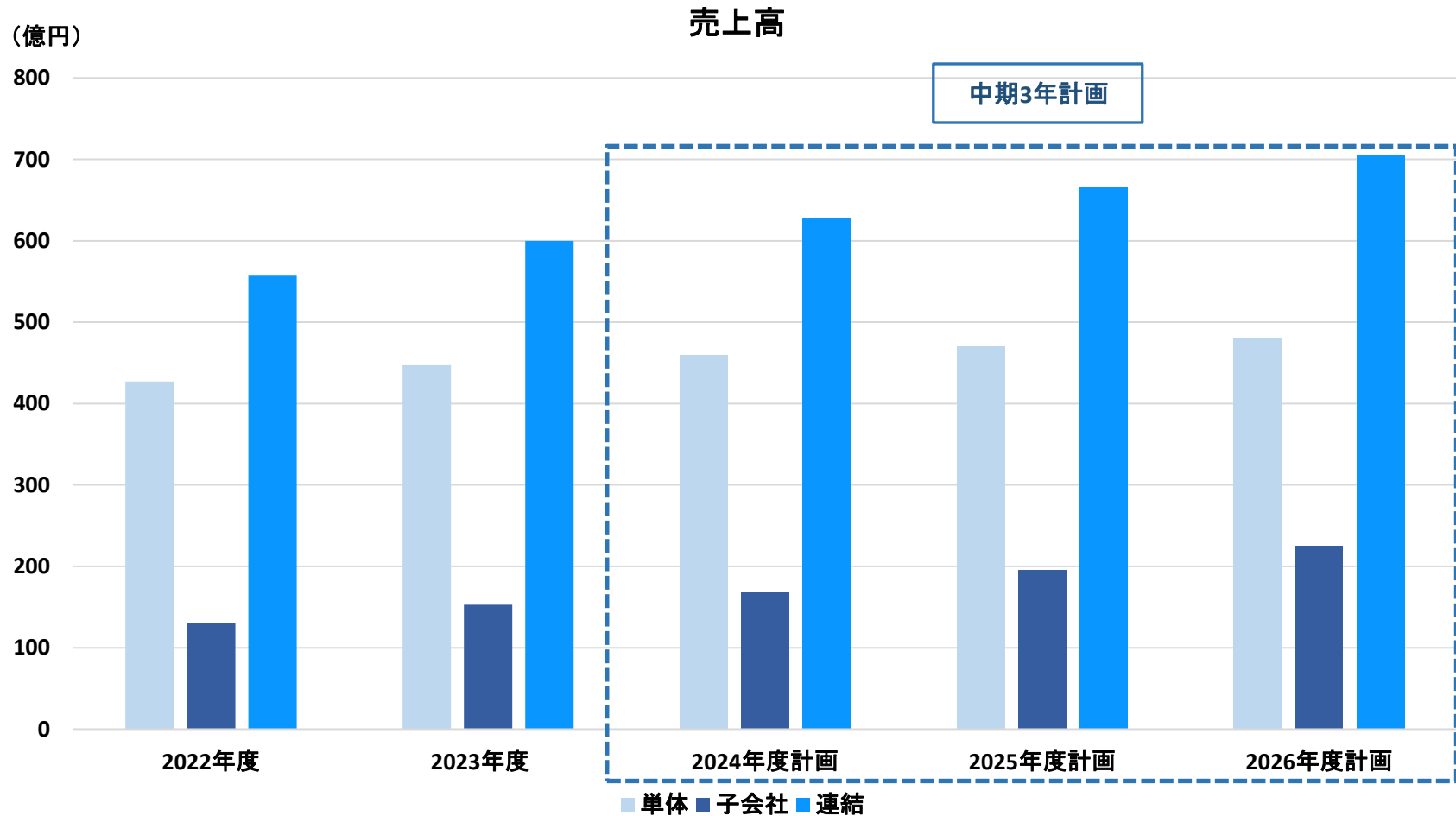
### □ 単体（アリアケジャパン）

国内は、外食産業を中心とした人流回復による需要増、それに伴う人手不足需要を取り込むとともに、当社の強みを活かした製品の積極的な提案営業を行い、着実な売上増を図ります。

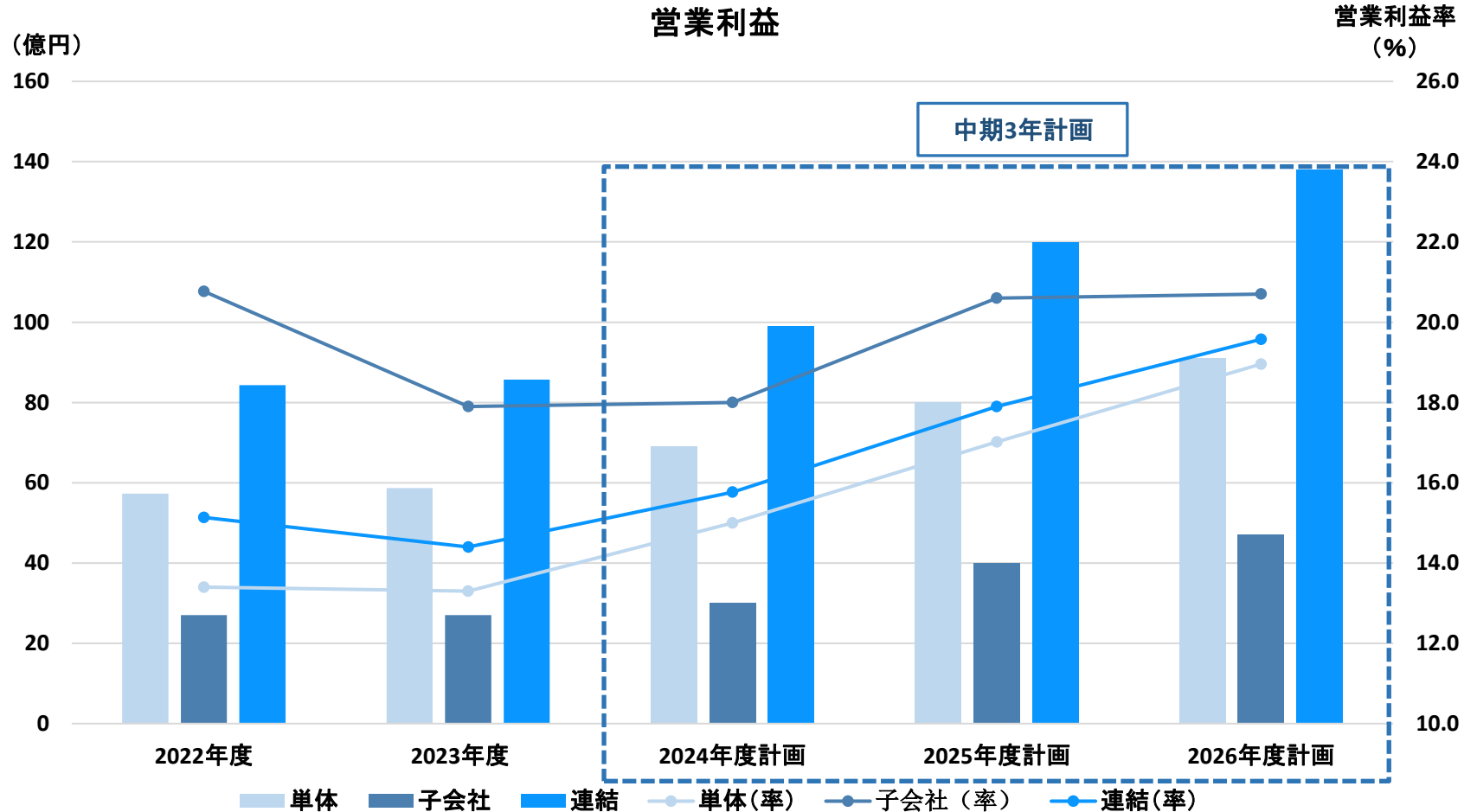
製品の価格改訂、リニューアル、原材料費、水道光熱費等のコストダウンを着実に実行し、段階的に営業利益率の改善を図ります。2026年度の営業利益率は19.0%を計画しております。



# 中期3年事業計画 売上



# 中期3年事業計画 営業利益



## 中期3年事業計画

(単位：億円)

		実績		計画		
		2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2027/3期
売上高	単体	427	447	460	470	480
	連結 子会社	169	192	203	233	267
	連結 調整	△ 39	△ 39	△ 35	△ 40	△ 42
	連結売上高	557	600	628	663	705
営業利益	単体	57	59	69	80	91
	連結 子会社	27	27	30	40	47
	連結営業利益	84	87	99	120	138

# アリアケグループ成長のビジョン

## □ 連結

成長戦略を推進し、特に成長余地の大きい海外グループ会社の売上を伸長させ、2030年には、2023年度の1.7倍の連結売上1000億円を目指します。

## □ 海外

海外グループ売上を2030年度に2023年度153億円の3倍以上を目指します。中国、ベルギーは、従来のインダストリー、フードサービス向けB2B事業に加え、消費者向けB2C製品の販売を強化致します。さらに新たに米国工場の建設を行い、B2C製品を主体とした新規開発品の製造販売を行います。

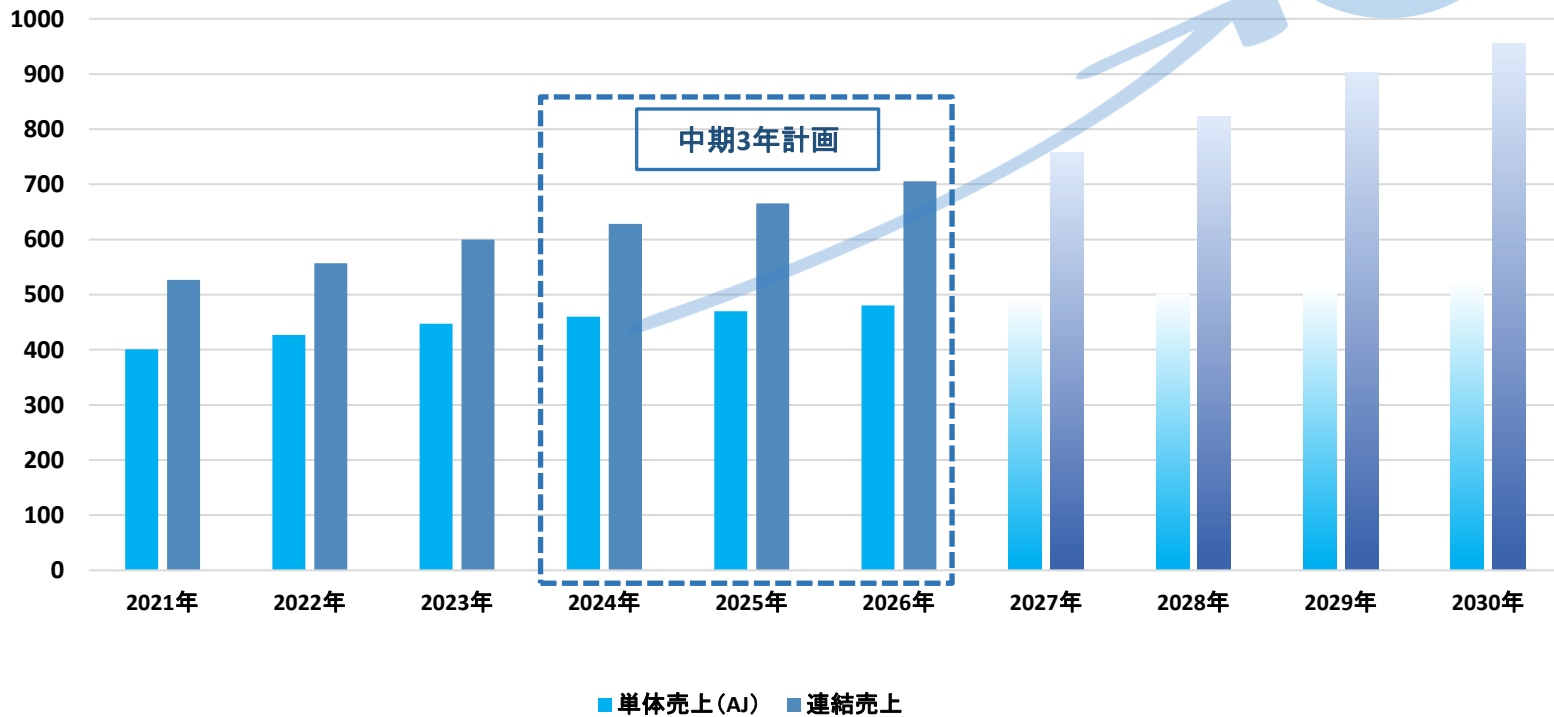
## □ 単体（アリアケジャパン）

外食産業を中心とした人流回復による需要増、それに伴う人手不足需要を取り込むとともに、積極的な提案営業を行うことでシェアを拡大し着実な売上増を図ります。

# アリアケグループ成長のビジョン

- 中国、ベルギー工場のB2C展開
- 米国工場再進出
- 国内は、人手不足需要と強みを活かした提案営業でシェア拡大

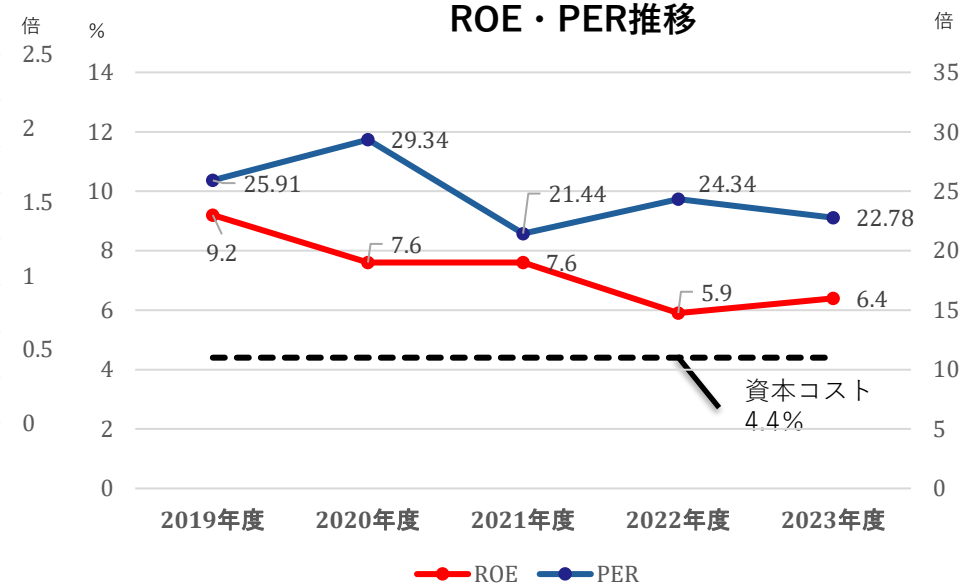
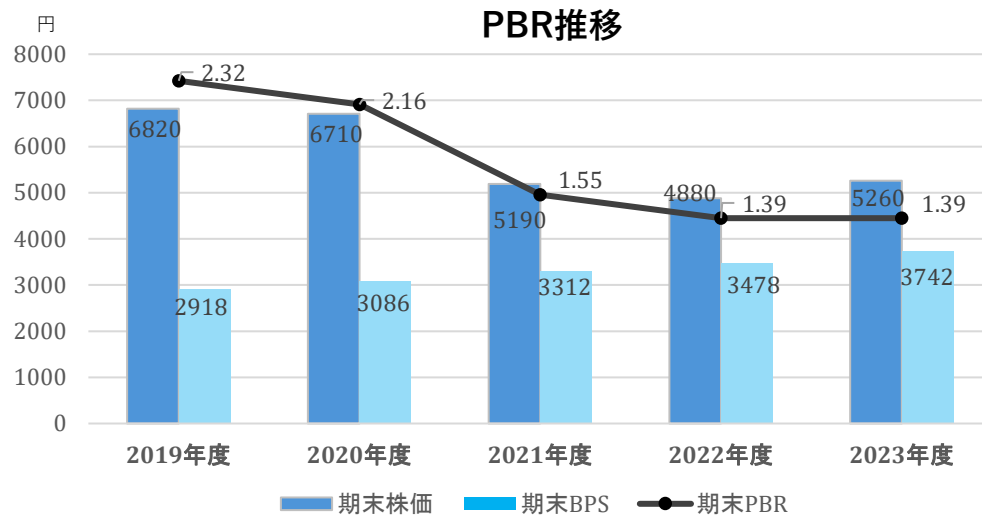
(億円)



## 設備投資予定

区分	2024年～2026年	2027年～2030年
中国 新工場建設・増設	50億円	50億円
米国 新工場建設・増設	50億円	200億円
台湾 工場増設	—	30億円
ベルギー 設備増設	—	40億円
アリアケジャパン 工場増設	—	—
アリアケジャパン(年次増強)	45億円	60億円
海外グループ(年次増強)	30億円	40億円
合計	175億円	420億円

# 資本コストや株価を意識した経営 現状分析

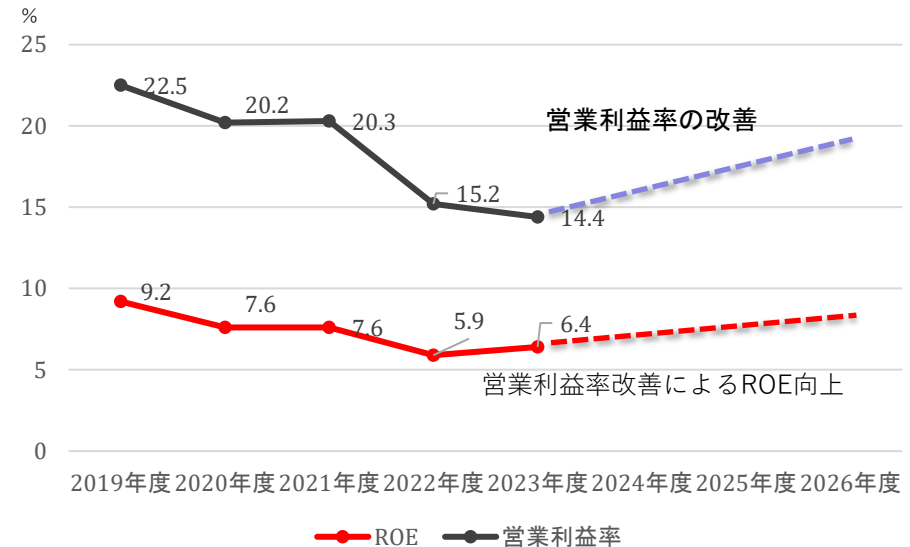
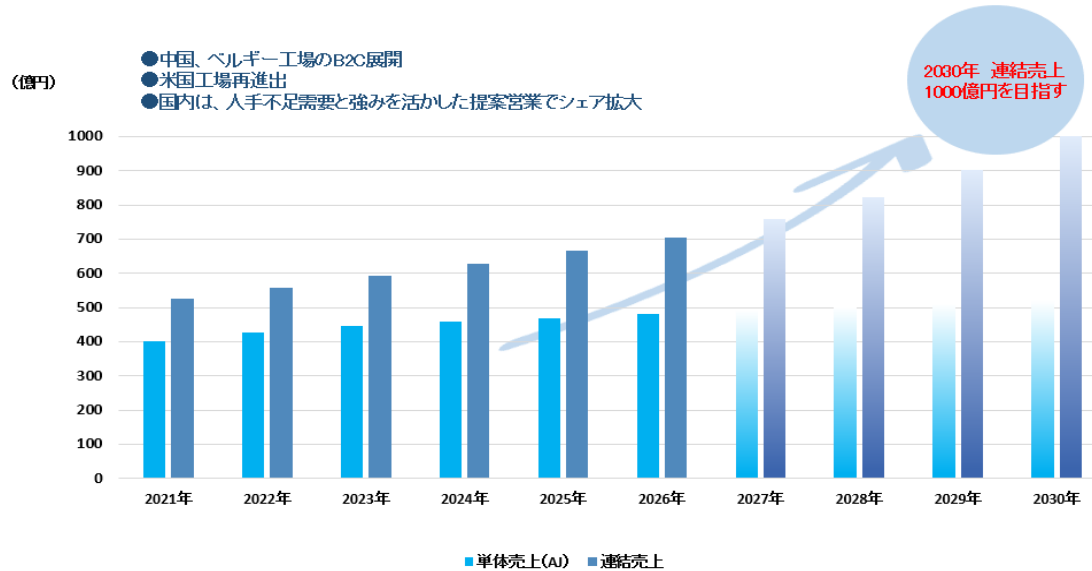


- 指標 株主資本コスト (CAPMベース) 資本収益性 = ROE 市場評価 = 株価、PBR、PER
- ROEはCAPMベースの株主資本コスト (4.4%) を上回り、PBRは1倍を超えているが、低下傾向にある。  
資本コストに対する超過 (エクイティ・スプレッド) を拡大し、継続的にROEを向上させる必要がある。
- 原材料高、円安等の影響を受け、収益性が低下している。
- 資本の活用と成長戦略の外部アピールが不足、資本市場、ステークホルダーの期待感が不足。

# 資本コストや株価を意識した経営 方針・目標と取り組み

$$PBR = ROE \text{ (収益率)} \times PER \text{ (成長期待)}$$

収益性の改善と資本市場の成長期待感を向上



- 中長期的に収益性（営業利益率）の改善に取り組む。価格改訂、リニューアル、コストダウン、VAなどによる利益改善実施。
- 収益性改善によるROEの向上。中期的にはROE8%、長期的には10%を目標とする。
- 資本市場との丁寧な対話と情報開示の充実を図る。中長期的な成長戦略の発信強化。
- 成長余地の大きい海外グループ会社に資源を集中、設備投資を行い売上を伸長させ、2030年に連結1000億円を目指す。
- DOE3%の基本方針を維持し、純資産に見合う株主還元を実施。
- 政策保有株の中長期的な企業価値向上への貢献度を検証、保有量の縮減を推進。



## サステナビリティへの取組

- サステナビリティ経営戦略の策定（基本方針、ビジョン、経営方針）、サステナビリティ委員会の設置、マテリアリティ（重要課題）の特定プロセスの整備、マテリアリティの特定及び主要な取組指標KPIの設定などを行い、具体的な取り組み事例とともに、当社ホームページ上に開示致しております。
- 脱炭素にも積極的に取り組み、2021年4月より、九州第一・第二工場で使用する全電力を再生可能エネルギーへ変換、2022年5月より、自家消費型太陽光発電システム（オンサイトPPA）による再生可能エネルギー電気の使用を開始致しました。
- その他、LNG気化器の空温化、ボイラー設備からの廃熱利用、野菜原料の再利用等に取り組み、2022年度は2020年度比55%のCO<sub>2</sub>削減を達成致しました。

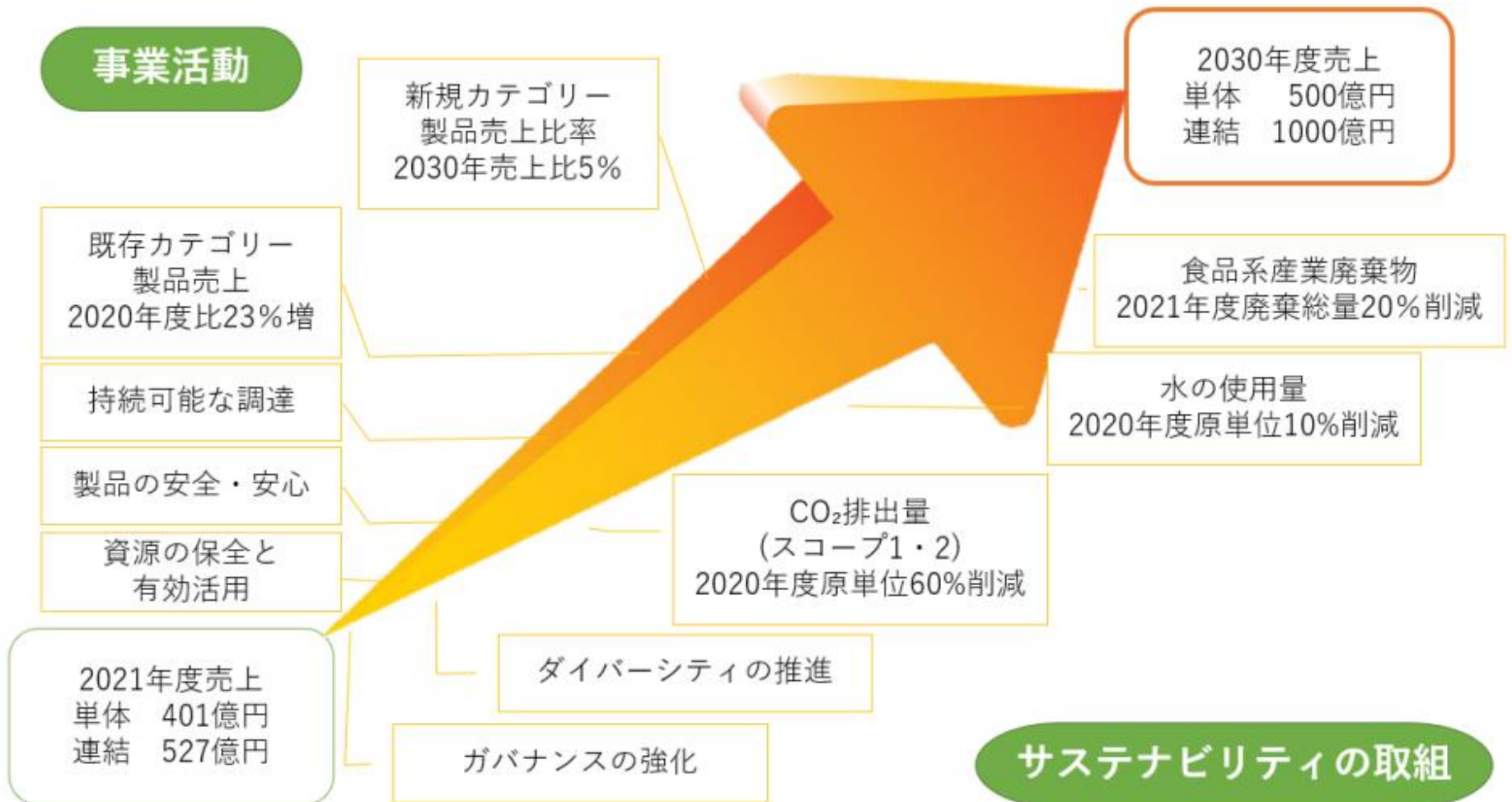


九州第二工場 自家消費型太陽光発電システム



LNG気化器空温式変換及び冷熱再利用

# 事業活動とサステナビリティの調和



# アリアケファーム 循環型農業への取り組み

## 1 有機栽培による野菜の栽培 ※無農薬・無化学肥料

1. 玉ネギ (2,500 t)、ニンジン (300 t)、白ネギ (160 t) 等を自家栽培
2. 全量天然調味料原料として使用



■ 諫早湾干拓地(中央干拓) 全面積：587ha



## 2 スープガラの発酵肥料化による

循環型農業の実践



◀ 認定証

水耕栽培実証プラント  
化学肥料を使わない水耕栽培野菜工場

設備概要

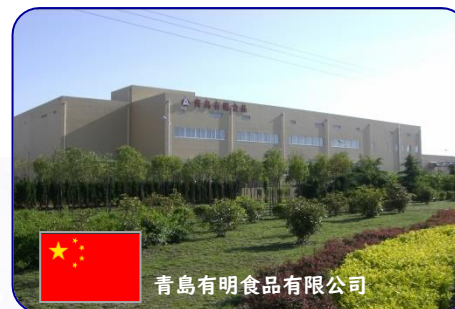
建築面積  
約300坪 (1,135㎡)



栽培ベッド  
定植パネル  
月間生産能力

34.5m×1.1m×15レーン  
60枚/レーン  
こまつな2,100kg  
ほうれんそう900kg

# アリアケグループ「世界7極体制」



Henningesen  
Nederland B.V.

青島有明食品有限公司

Ariake Europe NV

F. P. Natural  
Ingredients SAS

アリアケジャパン株式会社  
台湾有明食品股份有限公司



PT. Ariake Europe Indonesia



- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。